

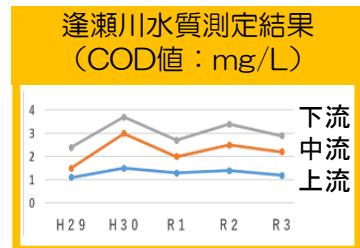


(更新：令和6年6月 計画期間：令和6年度～令和10年度)

これまでの主な取組状況や社会情勢の変化等による振り返り

重点施策 1 地域住民等と連携した環境保全活動

○水環境保全活動への参加促進・支援



都市部（下流）の水質は改善が必要

○生態系を守る活動の推進

- ・地域生態系を攪乱する特定外来生物ウチダザリガニを捕獲し、地域生態系を回復させる活動が行われてきた
- ・コロナ禍においても活動を継続し、捕獲活動回数の増加や捕獲場所の変更により、捕獲数は増加傾向にある

ウチダザリガニ捕獲数 (西郷村 堀川ダム)



増加傾向

○県民参加の森林づくりの推進

- ・森林づくりや森林環境学習活動などを通して、森林づくりの大切さを学び意識醸成を行った
- ・コロナ禍による学校行事等の中止の影響により参加者が減少したが、森林環境学習活動の定着等により、参加者数は持ち直してきている

<県総合計画管理指標> 森林づくり意識醸成活動の参加者数



コロナ禍で大きく減少

重点施策 2 清らかな源流の水を守る人づくり・地域づくり

○水質保全意識の醸成

- ・子どもたちの水に対する意識を高めるため「せせらぎスクール」や「水の作文コンクール」などの取組を進めており、参加数は年々増加
- ・また、水に関するボランティア活動への参加について、一度も参加したことない人の割合は減少

<本計画管理指標>

せせらぎスクール参加団体数
H29：36団体 → R4：49団体

県政世論調査(令和4年度)

水に関するボランティア活動等へ一度も参加したことがない(中通り)
H29：61% → R5：57%

⇒減少しているが、約半数が参加していない

○防災意識の啓発

- ・豪雨から子どもの命を守る出前講座などの取組が進められている
- ・また、近年、水害が頻発化・激甚化しており、水害などに対する不安や心配が大きくなっていることから、防災や減災の取組みを充実していく必要がある

県政世論調査(令和4年度)(中通り)

水についての心配や不安

- 豪雨などによる災害の発生
H29：42% → R4：56%
- 災害時の飲料水の確保
H29：45% → R4：52%

重点施策 3 水環境団体の取組支援とその活性化

○水環境団体への若い世代の参画促進

- ・大学生のボランティアサークルの参画による水環境活動を実施
- ・コロナ禍で活動が途絶えたことから、再度連携を構築していく必要

水環境団体アンケート結果 (中通り)

| | |
|--------------|-----|
| 若い世代の参画がない団体 | 48% |
| 若い世代の参画が必要 | 94% |

○水環境団体の活動支援

- ・水との共生出前講座による専門家派遣や水環境活動企画提案事業による活動のサポートを実施
- ・効果的な取組であることから、引き続き支援を継続

水環境団体アンケート結果 (中通り)

| | |
|--------------|-----|
| 効果的な活動に必要な情報 | |
| 他団体の活動状況 | 68% |
| 行政機関の支援制度 | 48% |

○水環境団体間の連携・交流の推進

- ・水環境団体の主体的な取組である福島県水環境団体交流会（さらさら）について、有意義な取組であることから、引き続き支援を継続
- ・各地方流域水循環協議会研修会については、連携・交流の場として内容の充実を図っていく必要

重点施策 4 中通り地方の水文化の継承

○水にふれ、学ぶ取組の推進

- ・県民の皆さんの身近な水への関心を高めるため「ふくしまの水に触れよう」イベントを実施

ふくしまの水に触れよう2023 「ふくしまの水活」



荒川（地蔵原堰堤） 摺上川ダム

重点施策 5 水循環施策の窓口機能強化

○水環境団体の連携・交流の促進

- ・福島県水環境団体交流会（さらさら）の活動を支援
- ・コロナ禍において、各地方流域水循環協議会の活動は研修の開催にとどまった

○中通り地方流域水循環協議会による各流域が抱える課題解決への支援

- ・各水環境団体が地方流域水循環協議会に期待する役割は多岐にわたっている

<水環境団体アンケート結果> (中通り) 流域水循環協議会に期待する役割

| | |
|----------------|-----|
| 他団体の活動情報提供 | 42% |
| 水環境などについての情報発信 | 32% |
| 水環境活動の実施 | 32% |
| 資料提供 | 32% |
| 行政機関の支援制度情報提供 | 32% |

重点施策1 地域住民等と連携した環境保全活動

今後の方向性

地域住民や水環境団体等が行っている活動の情報発信を行い、水環境保全活動への参加を促進します。

絶滅危惧種の保護や、外来種駆除等の取組を推進します。

森林の役割や重要性を学ぶ機会を充実させるなど、県民参加の森づくりを推進します。

放射性物質からの環境回復に向けた取組について情報発信を行い、水辺空間における活動等に参加しやすい環境を整えます。

具体的な取組

地域住民や水環境団体が行っている水環境活動への参加促進や活動支援、放射性物質からの環境回復に向けた取組等について情報発信などを行い、環境保全活動の輪を広げます。

水環境保全活動への参加促進・支援

福島県HP等を活用して、各流域の水環境に関する活動紹介や参加者募集、水辺空間や水に関するイベントなどの情報を発信します。



福島県HPによる情報発信「水環境ニュース」

生態系を守る活動の推進

地域住民や水環境団体が行っている外来種駆除などの生態系を守る活動を推進します。



水環境団体の外来種駆除活動（堀川ダム）

県民参加の森林づくりの推進

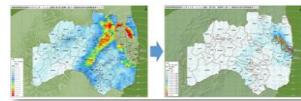
「もりの案内人」と協働し、自然観察会や野外活動などを通して、森林づくりの大切さを学ぶ機会を充実させます。また、水を蓄え育む豊かな森を育てるため、植林等のボランティア活動を推進します。



植林活動（赤面山）

放射性物質等に関する情報発信

水辺空間の利用を控えている県民に配慮し、福島県HP等を活用して環境放射線モニタリング結果や環境回復に向けた取組等について情報提供を行います。



福島県HPによる放射線量の変化等の情報発信

重点施策2 清らかな源流の水を守る人づくり・地域づくり

今後の方向性

子どもたちの水への関心を醸成するなど、身近な環境保全活動への参加を促進する取組を推進します。

流域内の交流や、他流域との交流を促進し、流域の豊かな自然等の魅力を伝えていきます。

水環境団体等の連携により、水を介した地域交流などを行い、魅力ある地域づくりにつなげていきます。

河川の流域のあらゆる関係者が協働して行う流域治水の取組を促進し、地域の防災力の向上に向けた取組を支援します。

具体的な取組

子どもたちへの環境教育を充実させるとともに、地域住民や水環境団体等による連携や交流を促進するなど、健全な水循環を支える人づくり、地域づくりを支援します。

水質保全意識の醸成

水生生物による水質調査を行う「せせらぎスクール」や、「水の作文コンクール」などを通じて、子どもたちの水に対する意識を高めていきます。



水の作文コンクール

水辺体験学習の推進

「水との共生出前講座」や「川の案内人」などを活用し、河川活動や小・中・義務教育学校の総合的な学習の時間の場において、水に学ぶ取組を支援します。



水との共生出前講座

水を介した地域交流・連携の推進

各流域の地域住民や水環境団体等による上下流や地域、流域間の連携・交流を促進します。



西郷村立川谷小・中学校と、宮城県巨理町立荒浜小学校による、阿武隈川上下流交流

防災意識の啓発

関係機関が連携し、減災対策に向けた取組や、地域住民の防災意識の向上の取組などを推進します。



流域治水をテーマとした研修会の開催

重点施策3 水環境団体の取組支援とその活性化

～まちと豊かな水環境の共生～

今後の方向性

若い世代の参画を促進し、水環境団体の活動に参加しやすい環境を整えます。

水環境団体活動の情報発信はもとより、企画段階から大学生等の若い世代の参加を促進するなど、より魅力ある活動内容となるよう支援します。

水環境団体の要望に応じて、専門家を派遣するとともに、優良な活動事例を紹介するなど活動の活性化を支援します。

水環境団体間の連携や交流に関する取組を支援していくとともに、研修会を始めとして意見交換の機会を増やしていきます。

具体的な取組

若い世代の参画を促すなど、水環境団体の人材確保や情報発信の支援を行うとともに、水環境団体間の連携・交流の取組を支援し、活動の活性化を図ります。

水環境団体への若い世代の参画促進

大学等と連携して若い世代の参画を促進するなど、水環境団体の活動に興味を持ってもらい、活動に参加しやすい環境を整えます。



大学生参加による植林活動

水環境団体の活動に関する情報発信

福島県HPや若者たちの情報発信ツールなども活用し、水環境団体の活動を紹介します。



若者のSNS等の活用

水環境団体の活動支援

勉強会や講演会等に講師を派遣する「水との共生出前講座」などを活用し、水環境団体の活動を支援します。



企画提案による水環境活動の実施

水環境団体間の連携・交流の推進

福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



福島県水環境団体交流会（さらさら）

重点施策4 中通り地方の水文化の継承

今後の方向性

中通り地方の水文化を学ぶ取組を支援します。

中通り地方の水文化を情報発信するとともに、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

中通り地方の流域の豊かな自然や地域資源などの情報を発信します。

具体的な取組

水文化を学ぶ取組への支援や水文化に関する情報発信を行うとともに、観光や地域づくりなどへ活用する取組を支援します。

水文化にふれ、学ぶ取組の支援

学校や地域における水文化を学ぶ取組や、地域の水文化を学びながら行う水環境活動を支援します。



水について学ぶ子どもたち

重点施策5 水循環施策の窓口機能強化

今後の方向性

研修会、意見交換会などの内容を充実していくとともに、水環境団体間の連携や交流の機会を充実していきます。

水環境団体等が行っている活動を広く情報発信を行い、その活動への参加を促進します。

水環境団体や各関係機関が実施する水循環施策に関する総合調整機能を強化します。

具体的な取組

中通り地方流域水循環協議会が、様々な主体の連携や情報共有を図りながら、水循環に関する取組がより効果的なものとなるよう支援します。

水環境団体間の連携・交流の推進

福島県水環境団体交流会の活動を支援するなど、水環境団体間の連携や交流の機会を充実させます。



各地方流域水循環協議会研修会